

初版以来の改訂経過

「解剖学用語」も初版発刊以来長い年月をけみし、その間いくたびかの改訂が行なわれた。このような改訂はとりもなおさず *Nomina Anatomica* とその日本学名との変遷の物語りにほかならず、大切に保存せらるべき史料というべきである。しかし改訂ごとに追加された新版の序をここに全部掲げることはも早や事情が許さなくなった。それで第9版以後は、発刊以来の各版の発行年月日と改訂のいわれとを列記して、初版から本版までに本書が経て来た路程の記録とすることになった。

初版：昭和19年6月（序文の日付け）、*J.N.A.* の制定に従って改訂された日本解剖学用語（昭和18年3月決定）をまとめた。日本解剖学会の私的印刷物として配られたものらしい。

第2版：昭和22年4月20日。「組織学用語」と「発生学用語」とが加えられた。この版から丸善の発行となる。

第3版：昭和29年5月25日。「全改訂版」として、巻末に索引が加えられたが、用語の変更はない。

第4版：昭和30年3月25日。

第5版：昭和31年3月20日。

第6版：昭和31年8月25日。

以上三つの版は第3版の増刷の形で出たものである。

第7版：昭和33年6月20日。「新版」として、在来の *J.N.A.* が1955年パリで決定を見た国際解剖学名 (*P.N.A.*) に切り代えられ、日本学名も昭和33年に日本解剖学会で改訂したものが用いられた（第7版の序参照）。

第8版：昭和33年11月20日。これは第7版の増刷にすぎない。ここで、「今後は内容の改変が行なわれない限り、版数を変えない」という取り決めが行なわれ、昭和34年3月15日、昭和35年5月10日、昭和36年4月15日の3回にわたって第8版の増刷が行なわれた。

第9版：昭和38年5月10日。*P.N.A.* は1960年に一部修補された（解剖学雑誌36巻134—146頁参照）。これに伴って改訂された日本学名（昭和32年決定）に従ったものである。改訂の経過については解剖学雑誌36巻571—575頁を参照されたい。この版の不統一な二、三の用語、ミスプリントなどについては正誤表が作られた（昭和39年7月1日）。

第10版：昭和40年7月10日（増刷は昭和41年5月15日と昭和42年4月10日）。上記の正誤表に従って改められたものである。増刷のたびにミスプリントが訂正されている。

なお、本文は第9版に当時の藤田恒太郎理事長が書いたものを元とし、その後の経過を加えたものである。また本書の歴史については、同氏が解剖学雑誌 37 巻 448—452 頁に詳しく記しているので参照されたい。

第 11 版：昭和 44 年 7 月 25 日（改訂 11 版の序参照）

第 12 版：昭和 62 年 9 月 30 日（改訂 12 版の序参照）

「日本語による解剖学用語」：平成 14 年 3 月。平成 11 年 4 月の解剖学会総会時に、平野寛 前理事長より「日本語による解剖学用語集」の作成を検討するようにとの命を受け、早速用語委員会で作業の段取りを決めた。その骨子は、木村 邦彦 元用語委員長の下で作成され、解剖学雑誌 61 巻 4 号（1986）に添付掲載された用語案とその注〔これは解剖学用語改訂 11（12）版と NA5（6）版の用語とを対比させた資料〕を基礎資料とし、FCAT を参照して日本語用語を中心に見直しするというので、各委員がそれぞれの専門分野で分担を決めて作業に入った。そして、平成 11 年 5 月～平成 12 年 12 月にかけて、2 回の見直し作業を持ち回りで実施し、その上で回収された見直し最終校を委員会の原案として、平成 13 年 3 月 平野 前理事長へ提出する運びとなった。つぎに、平成 13 年 4～5 月にかけて、13 年度新委員による再度の見直しを実施し、同年 11～12 月の 2 ヶ月間に亘って解剖学雑誌 76 巻 5 号（2001）を通じて解剖学会会員へ一般公開して意見を求めた。そして、会員からの意見を参考にして再度の見直しをして、最終原案を平成 14 年 3 月、廣川信隆 理事長へ提出した。